



# れんけいより

vol.20  
2014年 1月号

## 年頭のごあいさつ



院長  
糸 幸平

明けましておめでとうございます。今年はよい年でありますように。

さて、昨年、当院は救急医の退職や相次いだ医師の逝去、会計検査院の立ち入り検査等、近年記憶にないくらいの大変な年でしたが、

一方で旧本館の取り壊しと公開空地への転換や、旧看護学校の取り壊しとその跡地の駐車場への転用でもって、足かけ7年にわたった新病院建設は完全竣工となりました。駐車場が増えたことで、今まで度々苦情の原因となっていた、駐車場前の道路の混雑が緩和されることだと思います。

アベノミクスによる景気回復が期待されるところですが、地方にその効果がでるには時間がかかりそうで、現実にその様な気配は医療界にはありません。むしろ消費税の引き上げが決定し、厚生労働省は診療報酬に反映させるといつてはいるものの、果たしてどうなるのか、発表が気になるところです。

医師（勤務医）不足はじわじわと進行しており、どの科も過重労働を実感しています。若い医師が島根県に残らないならば、残った医師達の負担がさらに増えていき、いつかは地域医療が崩壊することになりましょう。病院間の機能分担なども俎上に載る時期が来そうに思います。

そんな中で救急医療の点では昨年12月29日から市の休日診療室が開始されました。休日の軽症者の受診は急性期病院に大きな負担となっており、それが幾らかでも軽減されることは、スタッフの負担が減ることになり、大変喜ばしいことあります。できれば午後10時くらいまで延長していただければありがたいのですが…。松江市や松江市医師会、松江記念病院のご努力に感謝いたします。市民の皆さん方には松江市の医療の現実を理解していただき、ご協力をお願いしたいと思っております。

1月31日から当院でも「まめネット」の運用を開始します。紹介患者の入院後の経過を知りたいという先生方のご希望は、「まめネット」の利用で簡単に実現します。地域で患者を診ていくという、病病・病診連携が更に緊密なものになるのではないかと期待しているところです。

解決すべき問題はまだ色々ありますが、今年も何卒宜しくお願ひ申し上げます。



## 透析センター紹介

透析センターは高層棟3階に位置し、外来患者さん及び入院患者さんの血液透析を行っています。透析センターには、22台の透析器械を備え、午前・午後の2ケルで一月約750～800件の血液透析を行っています。この中で、入院患者様の透析が占める割合は22%～25%です。

腎臓・膠原病内科医師2名、糖尿病・内分泌内科医師5名、看護師12名、臨床工学技士6名の他、栄養士・薬剤師・ソーシャルワーカー・看護助手などの医療スタッフがチームを組み、一人ひとりの患者さんを全面的にサポートするため専門性を生かしたチーム医療を展開しています。

地域の急性期病院としての役割を果たす当院の透析センターは、センター的役割を担っています。透析の新規導入、合併症のある入院治療、心臓・血管外科関連の合併症の患者さんといった多様な患者さんを受け入れています。また通院が出来なくなった重症の患者さんへの見取りに近い医療も受け入れています。

最近患者を取り巻く背景は以前に比べ、高齢・重症化・施設入所・通院に介護を要する等大きな変化を遂げています。透析センターでは、この患者背景を十分に理解し、安心で安全な看護の提供を心掛けています。看護師は、看護師経験10年以上のベテランばかりですが、研修会・勉強会への参加、他施設との意見交換などを行い透析の新しい知識・技術を高めています。患者さんと信頼関係を築きながら、「安心して任せられる心強いを看護師」を目指し日々努力しています。



又透析療法には、透析センターで行う血液透析療法の他に、在宅で行う腹膜透析療法もあります。現在当院では10名の腹膜透析の患者さんをかかえています。透析導入の段階で選択肢の一つとして提示し、患者さんに選んでいただいています。透析施設がないなど地域的状況も含め時間の拘束がないため、仕事をしている、介護をしている患者さんにとっては適した治療法です。関連病棟と連携を取りながら、患者さんが安心して治療ができるようトラブル時の対応を含め相談に応じています。

今年度から入院・外来・地域の腎不全患者さんを支え、切れ目のない継続看護を目指して、関連病棟と透析センターの一元化に取り組み始めました。今後も適切な透析治療を提供することで、患者さんの不安が少しでも軽減でき、安心して社会生活が送れるようサポートを続けて行きたいと思います。



## 形成外科からのご案内

### 炭酸ガスレーザー導入

当院では平成25年12月から炭酸ガスレーザーを導入しました。

炭酸ガスレーザーは、ほくろやいぼなどの良性のできものに対して有効で、水分に反応する特徴のあるレーザーです。レーザーを照射すると細胞内の水分に反応して一瞬にして熱エネルギーに転換されて蒸散が起こり、組織が除去されます。炭酸ガスレーザーの作用は照射部局所に限られ、周囲へのダメージが少ないため、傷の治りが早く、傷痕も目立ちにくいと言えます。ただし、やけどと同じような状態ですので、傷痕が全く残らない訳ではありません。照射の部位や範囲によっては照射後のケアが必要になることもあります。

#### レーザーの適応となる疾患

- 母斑(ほくろ)
- 脂漏性角化症
- 毛細血管拡張性肉芽腫、陷入爪などの不良肉芽
- 稗粒腫、汗管腫
- 尋常性疣瘍(いぼ)
- その他の隆起性皮膚病変

レーザー照射の際は、局所麻酔を行いますので痛みや出血はほとんどありません。治療は外来通院で比較的短時間に行えます。

レーザー治療は優れた治療法の一つですが、適応にならない病変もありますので形成外科医に相談下さい。



### 「第7回地域医療従事者スキルアップセミナー」を終えて

#### 地域医療連携課長 齊 藤 文 章

去る1月25日（土）「第7回地域医療従事者スキルアップセミナー」を開催しました。今回は、「腎臓を守るために自分でできること」と題し、膠原病・腎臓内科漆谷義徳部長から「慢性腎臓病（CKD）2013」と題して講演いただきました。続いて、日野厚志臨床工学課主任から「透析療法について」、さらに安原みずほ栄養課係長からは「慢性腎臓病（CKD）患者への栄養指導」と題して講演頂きました。どの演題もとても素晴らしい内容で、参加された皆様も満足のいくものであったかと思います。参加については事前申し込みで院外から57名、院内からは31名の申込みをいただき



ました。当日は100名近い参加を頂き、無事成功裏に終えることができました。また、本館6階講堂を利用しての開催は今回で二度目となり、ご案内もスムーズに出来たかと思います。なお、準備に手間取り時期的にこの2年間はまちまちの開催となり、その点では皆様にご迷惑をおかけし申し訳ありませんでした。今後も「地域医療従事者スキルアップセミナー」を通して地域の医療従事者の皆様との連携を深めていきたいと思いますのでよろしくお願ひいたします。



## まめネットでの情報提供を始めます

平成26年1月31日から「しまね医療情報ネットワークサービス（まめネット）」の運用を始めます。当院が利用するまめネット提供サービスは以下のとおりです。よろしくお願いします。

提供サービス名		機能概要
基本サービス	ポータル	「まめネット」システムのトップページ
	掲示板	各病院、診療所との情報共有
連携アプリケーションサービス	連携カルテサービス	自院カルテ情報の公開と他院カルテの参照
	紹介状サービス	他院からの電子紹介状受信
	画像中継サービス(Web参照)	他院DICOM画像のWeb閲覧
	画像中継サービス(画像中継)	院内PACSとまめネットを連携させ、紹介画像の閲覧や送受信を実施 (送られてきた画像をPACSに取り込む機能)

### 松江赤十字病院 地域連携 第3回 サイエンス 漢方 処方研修会

日時 平成26年 2月21日(金)  
18:00~20:00

会場 松江赤十字病院 本館6階 講堂  
松江市母衣町200 TEL:0852-24-2111

【特別講演】 演題：『老年症候群と漢方』

講師：静仁会静内病院 院長 井齋偉矢先生

申し込み先：松江赤十字病院 地域医療連携課 TEL 0852-32-7813 FAX 0852-27-9261

松江赤十字病院 地域医療連携課

〒690-8506 松江市母衣町200番地

TEL 0852-32-7813 FAX 0852-27-9261

